

## 要約問題

『医学部の小論文』（河合出版） p.54～55 より引用

（中略）

しかし、現代では哲人のような禁欲的な精神主義を受け入れる人は少ないであろう。各個人には自由に生きる権利がある。意志で習慣を変えるのが人間的ならば、勝手に生きるのも人間的である。この選択は長い人生の生き方を決める人生観といってもよいであろう。柔らかい個人主義を主張する山崎正和氏は、「世界の先進国で『健康カルト』が荒れ狂っている観がある」という。そして、「この宗教には教祖も教義もないが、見えない神に信仰告白を競いあわねばならない」「人間の情熱が（健康という）1つの目標によって画一化され、まして国家によって善導されるのは、最大の時代錯誤といわねばならないだろう」と結んでいる（『読売新聞』1999年11月29日朝刊）。

これに対して、「健康日本21」企画検討会の座長である高久史磨自治医大学長は、「科学的根拠に基づいて健康の情報を国民に提示する必要がある。健康日本21に書かれているような行動を取るかどうかは個人の自由であることはいうまでもない。決して生活文化を統制するようなものではない」と同誌で長文の反論をしている（1999年12月14日朝刊）。

しかし、両者の議論は噛み合っていない。基礎医学では価値観とは無関係な「普遍的な真理」を求めればよいが、これだけでは生活習慣病を予防することはできない。有害な肥満や喫煙を止めるには、その個人の価値観を変えるのが鍵なのである。臨床医学は予防・治療など、「行動の指針」を求める応用科学であり、価値観を含む。そして、このような価値観を形成しているのは思想や文化であり、個人の自由と多様な選択肢を残しながらも、思想を善導する努力が医師には要るのである。

（以下、略）

問：下線部「両者の議論は噛み合っていない」とあるが、山崎と高久の議論はどのように噛み合っていないと筆者は言うのか、250字以内で述べなさい。